

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 28 日現在

機関番号：33502

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370060

研究課題名(和文)11世紀インド・チベットにおいて形成された仏教思想の基盤と展開に関する研究

研究課題名(英文)Study on base and development of Buddhism Thought formed in India Tibet in the eleventh century

研究代表者

望月 海慧 (Mochizuki, Kaie)

身延山大学・仏教学部・教授

研究者番号：70319094

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：11世紀においてチベットに仏教を伝承したディーパンカラシュリージュニャーナの文献を調査することにより、以下のことが解明された。(1) 密教文献を通して、アシュヴァゴーシャ、アドヴァヤヴァジュラの著作に著者性の問題があることが解った。(2) インドのヴィクラマシーラ寺院における活動を通してパーラ王との関係が明らかになった。(3) 小部文献を通して彼の著書中に偈頌の借用関係があることが解明された。(4) ナーガールジュナへの言及を通して彼のナーガールジュナ観が明らかになった。(5) 誓願文献を通してインドにおける誓願文の伝承関係が明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The following things were elucidated by investigating documents of Dipamkarasrijnana which handed down Buddhism to Tibet in the eleventh century. (1) Esoteric Buddhism documents tell us that there is a problem of authenticity in the works attributed to Asvaghosa and Advayavajra. (2) Historical documents tell us his relation with the kings of Pala dynasty. (3) There are many loan verses from his other writings in his small works. (4) References to Nagarjuna in his works shows us his view of Nagarjuna. (5) There was a tradition of vow literature in India.

研究分野：インド・チベット仏教

 キーワード：ディーパンカラシュリージュニャーナ アシュヴァゴーシャ ナーガールジュナ パーラ王 誓願文献
チベット仏教

1. 研究開始当初の背景

これまでのインド仏教思想研究では、チベットで著された宗義書の視点に基づき、インド仏教の諸論師の思想的立場を確定してきた。このような見方は、インドにおいてもバヴィヤの段階で成立しているのだが、インドの論師たちの思想的特徴を論じる上で有効な視点であった。ところが、後期インド仏教文献を実際に読んでみると、同じ著者の中に、顕教的立場で著された文献もあれば密教的立場で著した文献もあり、さらに、中観学派と瑜伽行唯識派のそれぞれの文献への依拠も見られる。このことから、一人の論師がさまざまな立場で著作を著していたことが明らかになり、後期インド仏教思想を批判的に再検討することが必要となっている。

本研究代表者は、平成14年4月から平成17年3月にわたり科学研究費基盤研究(C)の助成を受けて「チベット仏教におけるラムリム思想の基盤に関する研究」(課題番号 14510028)を、平成19年4月から平成23年3月にわたり科学研究費基盤研究(C)の助成を受けて「チベット仏教における「大中観」思想に関する研究」(課題番号 19520056)を行ってきた。また、三重大学の久間泰賢教授による研究プロジェクトに加わり、「ヴィクラマシーラ寺院の学僧の著作群における密教思想の位置づけに関する総合的研究」と、「密教思想と他の仏教思想との関係性」について調査を行っている。本研究課題は、上記の視点にたち、これらの研究をさらに発展させるものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、後期インド仏教および後伝期チベット仏教の思想を解明することである。その具体的調査対象としてディーバンカラシュリージュニャーナ(アティシャ, 982-1054)の著書を取り上げ、その思想展開を批判的に再検討することである。その考察対象は、次の通りである。

(1) チベット仏教の宗義書が彼の思想を中観帰謬派と定義することは正しいのか。

(2) 彼の思想の基盤を形成する根拠となったものはどのような思想か。

(3) そもそも中観派という学派意識が後期インド仏教に存在したのか。

以上のことを文献資料に基づいて考察し、彼の思想的特徴を解明することで、11世紀のインド・チベットにおいて形成された仏教思想の基盤とその展開を明らかにする。

3. 研究の方法

具体的な研究方法は、次のとおりである。

(1) ディーバンカラシュリージュニャーナの著作のうち、これまで解読を行ってこなかった密教文献を中心に研究を行う。具体的には、チベット語に翻訳された文献を諸版対照することで校訂テキストならびに翻訳を完成させ、それに基づく思想的解読を行う。これらの基礎資料に基づいて、彼の思想的特徴を解明する。また、ラトナーカラシャーンティやアドヴァヤヴァジュラなどの同時代の諸論師や文献との関係を調査する。

(2) ディーバンカラシュリージュニャーナの伝記資料・歴史資料を比較分析することで、彼のインドにおける事績を解明する。具体的には、チベットで著された彼の伝記と、チベット人が著したインド仏教史における彼への言及、また彼の著作の奥書きに記された執筆情報などを調査することにより、彼のインドでの具体的活動を明らかにする。

(3) 彼の著作のうち、密教文献を中心に考察し、その中観思想との影響関係を分析する。これまでに作成した校訂テキストから、個々のテキストを取り上げ、それらが著された思想的背景について考察する。

これらのディーバンカラシュリージュニャーナの著作分析をモデルケースとして、11世紀インド・チベットにおいて形成された仏教思想の基盤と展開が明らかにされる。

4. 研究成果

研究成果は、次の5点にまとめられる。

11世紀においてチベットに仏教を伝承したディーパンカラシュリージュニャーナの文献を調査することにより、以下のことが解明された。

- (1) ディーパンカラシュリージュニャーナの密教文献である『根本過犯注』を通して、アシュヴァゴーシャ、アドヴァヤヴァジュラの著作に著者性の問題があることが解った。すなわち、チベット大蔵経にはアシュヴァゴーシャに帰される『根本過犯』が収録されているものの、その内容はディーパンカラシュリージュニャーナの師とされるアドヴァヤヴァジュラの『根本過犯集』と同じである。しかしながらディーパンカラシュリージュニャーナの注釈書では、その著者をバヴィデーヴァとしており、そのことはチベットにおいても伝承されている。このことから、チベット大蔵経所収の『根本過犯』をめぐる著者性の問題があることになる。また、ディーパンカラシュリージュニャーナの著作におけるアシュヴァゴーシャへの言及を調査することで、アシュヴァゴーシャに帰される小部文献の伝承に問題があることが明らかになった。
- (2) ディーパンカラシュリージュニャーナの伝記とチベットにおいて著されたインド仏教史、並びに彼の著作の奥書などの記述から彼のヴィクラマシーラ僧院における活動を明らかにした。すなわち、伝記資料から、彼は同僧院に滞在中からチベット人と自らの著作のチベット語への翻訳を行っていたことが明らかになった。ターラナータによるインド仏教史におけるパーラ王と関連づけた記述から、彼はマハーパーラ王の時代にチベットに招かれ、ネーヤパーラ王の時代にチベットに発った。また、ネーヤパーラ王に送ったとされる『無垢宝書簡』があるが、『菩薩摩尼鬘論』との間に多くの平行句があることから、著作問題に慎重にならなければならない。
- (3) 『無垢宝書簡』と『菩薩摩尼鬘論』の間だけではなく、他にも『菩薩行略誡』の中にも平行句を確認することができた。同論には、さらに他の著書との平行句も確認できることから、

彼の著書中には用語の借用関係だけでなく、偈頌の借用関係もあることが解明された。

(4) ナーガールジュナへの言及を通して彼のナーガールジュナ観が明らかになった。すなわち、彼の著作においてもっとも引用が多い文献は『菩提心積』である。また、ナーガールジュナを中観学派の祖と認識しているが、彼のナーガールジュナ観は中観思想だけにとどまらないことが明らかになった。また、密教行者としてナーガールジュナの著作も受け入れており、当時のインド仏教におけるナーガールジュナ観が空性論者だけにとどまらなかったことを示している。

(5)彼の『種姓誓願』を解読する過程において、チベット大蔵経のテンギユルの雑部に誓願文の文献が収録されている。ディーパンカラシュリージュニャーナは『菩提道灯論細疏』においてこれらの文献に言及していることから、11世紀のインド仏教にこれらの誓願文献の伝承が知られていることが明らかになった。特に、ナーガールジュナの『宝鬘論』からの抜粋である『誓願二十論』にも言及しており、また、自らも『種姓誓願』によりチベット人に対してよい種姓への転生を願う願文を示していた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

- 1 望月海慧「ヴィクラマシーラ僧院における Dīpaṃkaraśrījñāna」『奥田聖應先生頌寿記念インド学仏教学論集』査読無、佼成出版社、2014, pp. 860-870.
- 2 望月海慧「ディーパンカラシュリージュニャーナが伝えた発心律儀の儀軌について」『日蓮仏教における祈りの構造と展開』査読無、山喜佛書林、2014, pp. 469-490.
- 3 望月海慧「Dīpaṃkaraśrījñānaに帰される vidhi 文献について(2)」*Acta Tibetica et Buddhica*, 査読無, 7, 2014, pp. 151-158.

- 4 Kaie Mochizuki, "On the *Ekasmṛtyupadeśa* of Dīpaṃkaraśrījñāna and his view on Nāgārjuna," 『印度学仏教学研究』 査読有, 63-3, 2015, pp. 213-220.
- 5 望月海慧「アシュヴァゴーシャに帰される密教文献について」『宗教研究』 査読無, 88別巻, 2015, pp. 281-282.
- 6 Kaie Mochizuki, "Dīpaṃkaraśrījñāna の *Bodhisattvacaryāsūtrīkṛtāvavāda* について" *Acta Tibetica et Buddhica*, 査読無, 8, 2015, pp. 199-216.
- 7 望月海慧「Dīpaṃkaraśrījñānaの『種姓誓願』について」『三友健容博士古稀記念論文集 智慧のともしび アビダルマ佛教の展開 インド・東南アジア・チベット篇』山喜房佛書林, 査読無, 2016, pp. 745-758.
- 8 Kaie Mochizuki, "Dīpaṃkaraśrījñāna's activity at the Vikramaśīla Monastery in Relation with the Pāla Dynasty," 『東洋文化』, 査読無, 96, 2016, pp. 63-80.
- 9 望月海慧「Dīpaṃkaraśrījñāna による二つの所作次第について」『印度学仏教学研究』 査読無, 64-2, 2016, pp. 88-95.
- 10 望月海慧「アティシャとパーラ王」『宗教研究』 査読無, 89 別巻, 2016, pp. 284-285.

〔学会発表〕(計7件)

- 1 Kaie Mochizuki, "Scriptures referred to in the works of Dīpaṃkaraśrījñāna", 13th Seminar of the International Association for Tibetan Studies, July 27, 2013, National University of Mongolia
- 2 Kaie Mochizuki, "On the Tantric Works of Aśvaghōṣa Cited in Dīpaṃkaraśrījñāna's Works", 17th Congress of the International Association of Buddhist Studies, Aug. 19, 2014, University of Vienna.
- 3 望月海慧「Dīpaṃkaraśrījñāna の *Ekasmṛtyupadeśa* について」日本印度学仏教学会第65回学術大会, 2014年8月30日, 武蔵野大学

- 4 望月海慧「アシュヴァゴーシャに帰される密教文献について」日本宗教学会第73回学術大会, 2014年9月13日, 同志社大学
- 5 望月海慧「アティシャとパーラ王」日本宗教学会第74回学術大会, 2015年9月6日, 創価大学
- 6 望月海慧「Dīpaṃkaraśrījñānaによる二つの所作次第について」日本印度学仏教学会第66回学術大会, 2015年9月19日, 高野山大学
- 7 望月海慧「Dīpaṃkaraśrījñānaの生死観」第68回日蓮宗教学研究発表大会, 2015年11月6日, 日蓮宗宗務院

〔図書〕(計4件)

1. 望月海慧『全訳 アティシャ 菩提道灯論』起心書房, 2015, 374 ps.
2. Kaie Mochizuki ed., Minobusan University, *Acta Tibetica et Buddhica*, Vol. 6, 2014, 146 ps.
3. Kaie Mochizuki ed., Minobusan University, *Acta Tibetica et Buddhica*, Vol. 7, 2015, 160 ps.
4. Kaie Mochizuki ed., Minobusan University, *Acta Tibetica et Buddhica*, Vol. 8, 2016, 218 ps.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年月日：
 国内外の別：

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

望月 海慧 (MOCHIZUKI KAIE)

身延山大学・仏教学部仏教学科・教授

研究者番号：70319094

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

()